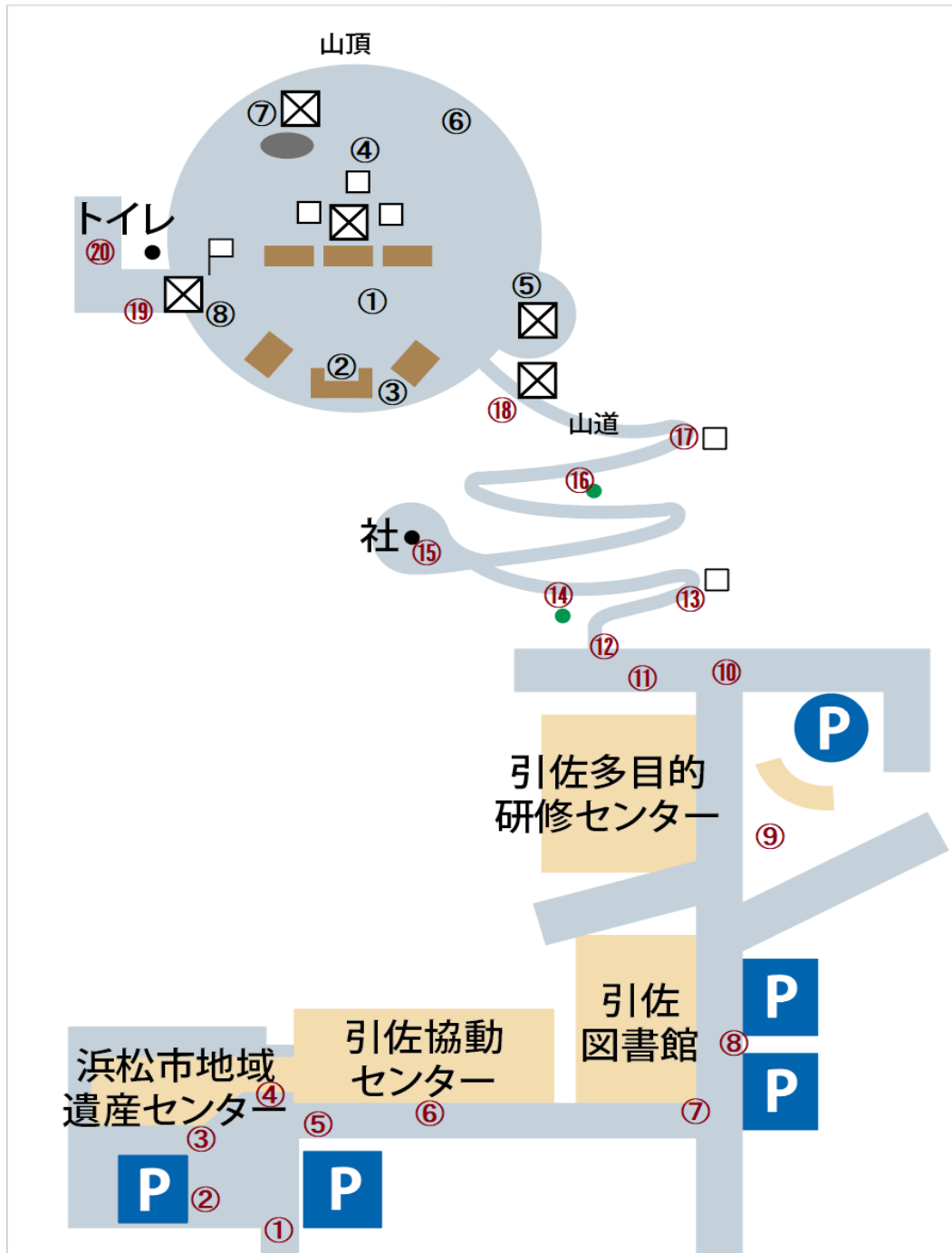


# 井伊谷城 【感謝巡礼案内】

井伊谷城について、県外に住む、お城プロRe殿ユーザーの方々が”感謝巡礼”をする際に、参考にしてもらえればと思い作成しました。特別詳しく解説してはおりませんが、地元民の視点で見どころや行き方についてまとめてみました。ぜひ参考にしてみてください。

自分が他県のお城に感謝巡礼した時、こんな紹介サイトがあったらよかったなと思った内容にしています。





①

井伊谷城山頂の様子です。  
解説看板や城址のポイント、  
記念撮影看板があります。この後ろにも一  
周すると色々なポイントがあります。



②

絶景ポイントです。  
アクトタワーが見えたのは驚きました。



③

井伊谷城跡からのパノラマ



④

山頂中心付近の看板裏に回りますと「御  
所の丸」という城址があります。石が積  
み上げられていて、ここが井伊谷城の中  
心だと表現されているのでしょうか。







⑤

登ってきた入り口の右後ろの広場にあります。「土壘」です。



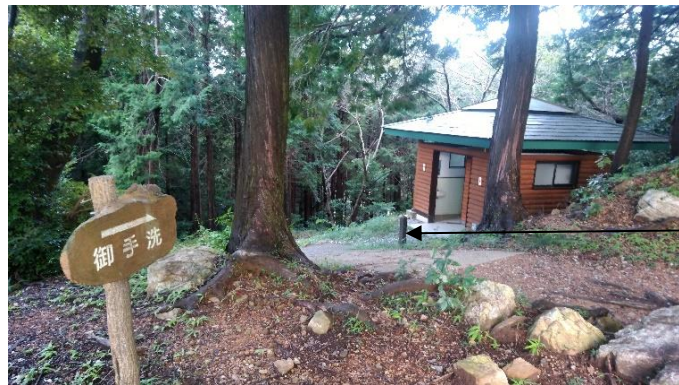
⑥

中心から少し右に逸れます。すると、家康ゆかりの「三岳山」が眺望できるそうです。肉眼では出来ましたがカメラだと朝6時の逆光で撮影不可能でした。是非肉眼で見てみてください。



⑦

三岳山から左に向かうと「井の宮石陵」というのがあります。何を指しているか分からなかったのとりにあえず近くのそれっぽい大きな石を意識しました。



⑧

トイレが見えますが、実は登ってきた「虎口（大手口）」の反対側で「虎口（搦手口）」とあります。どこから来れるのか分かりません。







①

井伊谷城の駐車場として使用できる施設、兼井伊谷城に向かう最初の入り口です。私は賭けで朝の5時頃この施設の駐車場に向かいましたが、運よく鎖もなく入れて駐車できました。



②

駐車する施設は「浜松市地域遺品センター」です。ここ以外にも井伊谷城の入口に近い施設がもっとあるのですが、そこは私有地であり井伊谷城を目的に止める人はここが公式駐車場だそうです。



③

駐車場として利用する「浜松市地域遺品センター」です。井伊直虎の展示や井伊谷城の3Dマップなど展示してあるそうです。朝9時開館なので5時では当然やっていませんでした。



④

引佐協働センター庁舎周辺地図です。入り口近くにある看板で、この点線で示された経路が井伊谷城に行く道順です。  
(私は少し施設付近を歩きました)







⑤

駐車場を出て最初の通過した施設「引脇協働センター」です。（車は通行禁止）  
何をする施設課分かりませんが、私はレポートを済ませて帰宅する朝7時頃に急に施設から音楽が流れ驚きました



⑥

「引脇協働センター」の出入り口の柱です。こういうのが割と数か所にありますので気にしてみると面白いかもしれません。



⑦

協働センターを抜けると次にあるのは「引佐図書館」です。ここの向かいには駐車場がありますが、公式には図書館の駐車場であり、井伊谷城に行く人が止めるのは良くないそうです。2か所あります



← ⑧ ↓







⑨ 「引佐多目的研修センター」向かいの駐車場です。井伊谷城に行く人の多くがここに止める為、困っているというブログや記事を見かけます。実際分かりませんが、私は公式の所に止めました。確かにここに止めれば近いです。



⑩ これを超えるとやっと、井伊谷城に向かう山道の入り口につきます



⑪ 入口付近には看板や説明、注意書き等がある為、しっかり読んで行きましょう。右側にも道がありますが進入禁止の看板があります。無くても誰も入らない様な感じですが。



⑫ 入り口はこんな感じです。直虎ちゃんの木製の杖が装備できます。







⑬

完全に舗装された山道を登り、最初に出てくるチェックポイントです。



⑭

第一休憩所です。

全部で2か所ありますが次の休憩は2/3程登ったところになります。近くに社があるので利用する方々に配慮されているのかもしれませんが。



⑮

「城山稲荷大明神」という社です。休憩所の直ぐそばにあります。私は分からなかったもので寄りませんでした。多分有難い神様です。



⑯

第二休憩所です。

これだと直ぐに感じますが、ここに来るまでだいぶ虫達に怯え戦って来ています。段数は普通なのですが季節的に虫が元気らしいです。枝必須装備でした。







⑰ しばらく登るとまた看板が見えます。



⑱ 最終チェックポイントです。今回は「虎口(大手口)」という所から入っていきます。引佐施設周辺から登るとこの「虎口」からになるそうです。頂上の反対側にもう一つ「虎口(搦手口)」というのがあります。



⑲ ここが反対側の入り口です。「虎口(搦手口)」とあります。どこから来れるのかわかりませんが、私は大手口から下山したら地元の方に会いました。多分搦手から登ってきたのでしょう。



⑳ 「虎口(搦手口)」はこの様にどこかに繋がっています。因みに映っている木造建築は山頂にあるトイレです。

